

# 「農業高校で学んだ専門学習に関する基礎的な知識や技術を農業や社会の発展に生かすためには、どうしたらよいか。」

九州ブロック連盟 熊本県立鹿本農業高等学校  
施設園芸科 3年 富田 未彩  
生活科学科 3年 吉川あかり

## 1 はじめに

### (1) 九州学校農業クラブ連盟の紹介

九州学校農業クラブ連盟は、昭和33年10月に熊本県と沖縄県を除く九州6県で「九州ブロック予選会（第1回九州学校農業クラブ連盟大会）」を開催したのが、始まりです。その後、昭和34年に熊本県、昭和47年には本土復帰した沖縄県が連盟に加入、現在に至ります。

今年度の各県連事務局校は、鹿児島県立加世田常潤高等学校、宮崎県立宮崎農業高等学校、大分県立宇佐産業科学高等学校、沖縄県立中部

農林高等学校、福岡県立行橋高等学校、長崎県立北松農業高等学校、佐賀県立唐津南高等学校、熊本県立鹿本農業高等学校です。クラブ員は、鹿児島県1,669名、宮崎県2,016名、大分県1,069名、沖縄県2,379名、福岡県2,469名、長崎県2,025名、佐賀県1,314名、熊本県3,105名、総勢16,046名と全国でも比較的規模の大きいブロックです。

「九州はひとつ」の合い言葉のもと、お互いに切磋琢磨した農業クラブ活動に取り組んでいます。特に、発表大会では「九州を制する者は、全国を制する」という言葉があるように、全国大会においても優秀な成績を修め、農業クラブ活動の活性化に貢献しています。



本年度ブロック連盟役員

### (2) 本年度九州学校農業クラブ連盟事務局校「熊本県立鹿本農業高等学校」の紹介

我が校は、熊本県の北部に位置し、今年創立102年目を迎えた歴史ある学校です。

本校の位置する熊本県山鹿市は、昔にタイムスリップしたかのように思わせる古い町並みと豊かな温泉が有名です。ロマンを感じさせる町並みの中にある芝居小屋「八千代座」は国の重要文化財に指定されており、現在でも歌舞伎の公演が催され、映画「るろうに剣心」ではロケ地として使用されとても有名です。そして至る所に沸き出る温泉は地域や観光客の癒しの場となっています。また農業分野では、県内一の生産量を誇るタケノコや栗の他、良質な米、スイカ、メロン、金柑、お茶などの生産が盛んに行われています。

本校には施設園芸科、食品工業科、バイオ工学科、生活科学科の4学科があります。①年次は全学科で田畑での実習を通して農業の基礎知識を学びます。2年次からは各分野で、より専門的な技術を学んでいきます。施設園芸科では「農業愛」を学科目標とし、地域の特産物である作物を中心に野菜・果樹・草花の学習をします。食品工業科では「プロフェッショナルの道」を学科目標に食品に関する技術を身につけ、ジャム・パン・肉加工品であるベーコンなどは農高プラザや文化祭でも大人気です。バイオ工学科では「夢実現！宇宙に羽ばたくバイオ科」を学科目標とし、バイオテクノロジーの最先端技術を学習できる学科で胡蝶蘭栽培や、地域の小学校との交流活動を行っています。生活科学科は「種まきから食卓まで」を学科目標とし調理・被服・保育を中心とした学習をしています。近隣保育園との体験学習を行い、子どもたちへ農業の大切さを伝えています。さらに、生徒会・農業クラブ・家庭クラブの3部会が中心となって様々な行事を行い、コメロンパンに代表される商品開発などの地域の特性を活かした活動を活発に行っています。これからも、それぞれの個性を磨き、仲間や地域とともに夢を叶えられる学校を目指していきます。

また、今年は食品加工部と食農研究会が九州ブロック大会プロジェクト発表区分「食料・生産」および「文化・生活」で、最優秀を獲得し、現在行われている群馬大会に九州ブロック代表として出場しております。

その他部活動では、郷土芸能伝承部が有名で、年間40回以上にもなるイベントに出場し、全国総文祭では文化庁長官賞を受賞している伝統ある部活があります。

## 2 九州学校農業クラブ連盟リーダー研修会の報告

九州学校農業クラブ連盟では、7月22日（水）～24日（金）に2泊3日の日程で「第49回九州学校農業クラブ連盟リーダー研修会」を実施しました。第1日目は、各県連の紹介とアイスブレイキングを行い、楽しく交流をしました。また、各県連紹介では各校の活動や県の取り組み報告を行いました。第2日目は、分科会討議を中心に行い、九州ブロックとして各分科会の討議を深めることができました。また、世界遺産が決まった阿蘇山での昼食や東海大学阿蘇キャンパスで農学部の見学を行い、熊本の魅力を県外の農業クラブ員と先生方に感じて頂くことができました。第3日目は、各分科会のまとめを行うとともに、全体会で分科会報告を行いました。

分科会討議では、クラブ員代表者会議のそれぞれのテーマについて協議を行いました。討議では、事例発表校が発表を行った後、6つの班に分かれて協議を行いました。協議では各県連から提出された分科会資料をもとに、各班で話し合いが行われ、協議の結果を互いに報告し合い、九州ブロック全体の意見としてまとめあげました。



九州連盟リーダー研修会  
(阿蘇青少年交流の家)



アイスブレイキングの様子

### 3 分科会協議・全体会の報告

テーマ：「農業高校で学んだ専門学習に関する基礎的な知識や技術を  
農業や社会の発展のためにはどうしたらよいか」

#### (1) 実態

- ① 農業高校に興味を持っている人が少ない。
- ② 卒業後、農業に関する職業についていない。
- ③ 農業関連の資格や取得ができていない。
- ④ 実習を通して知識や技術を身につけてはいるが、その生かし方がわかっていない



#### (2) 問題点：実態の中から見えてきた問題点を整理すると 次の①～④のようになりました。

#### 分科会協議の様子

- ① 農業従事者で高齢化の人が多くなっている。
- ② 3K（4K）や収入が不安定など農業に関するイメージが悪い。
- ③ 近隣の園児や小学生などの交流教室を開く回数が少ない。
- ④ 知識や技術があっても時間とコストがかかり生かせる場所が少なく、どう伝えればいいのか分からない。

#### (3) 問題点解決のための具体的な取り組み

- ① 農業クラブから学校に交流教室などを開く提案をする
- ② 農業を辞めたいと思う人のために指導者と場所の提供をする。
- ③ 自分たちが作った野菜や加工品を販売するものを増やし、地域と関わり、農業への良いイメージを持ってもらう。

### 4 協議内容のまとめと今後の課題

自分たちの農業への関心が薄れ、農業以外の職に就く人がいることが1つの原因として考えられる。

#### (1) 地域との交流

（農業高校生が農家や園児や小学校へ訪問）

#### (2) 三大目標の意識向上

（1人ひとりが農業クラブの三大目標を理解し意識する）

#### (3) 農業のイメージ改善

（3Kだけでなく、農産物を収穫する喜びを仲間と分かち合う。）



#### 全体会報告の様子

### 5 おわりに

地域の人たちに、農業への興味をもってもらうために、私たち農業高校生だからできることがあります。各校で工夫をしながら地域や企業との関わりを深めて活動をしていることもわかりました。小さな一歩ですが、まずは私たち自身が農業に関わる職に就き農業の魅力を発進する一人でありたいと思います。そして、農業の発展のために貢献できる人になれるよう、日々の学習に関心を持ち努めて行きたいと思います。